

経営比較分析表（令和元年度決算）

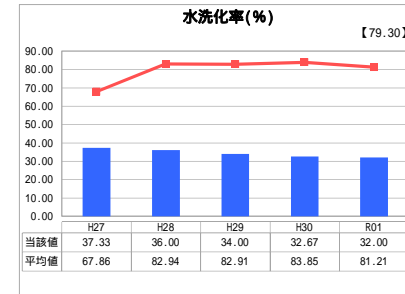
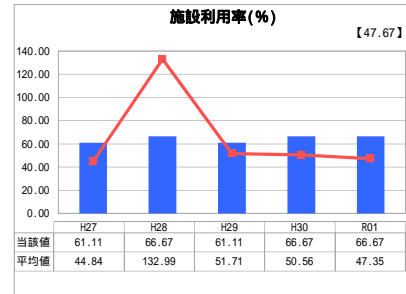
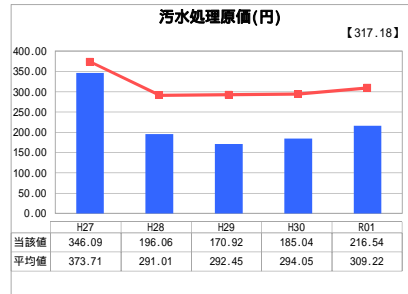
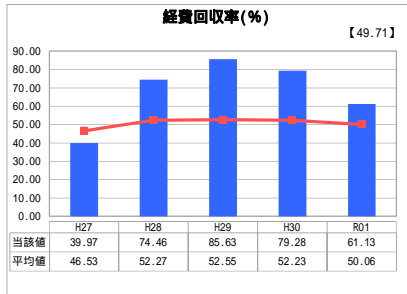
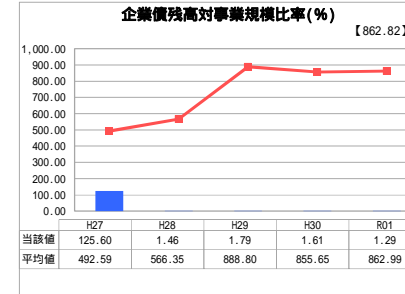
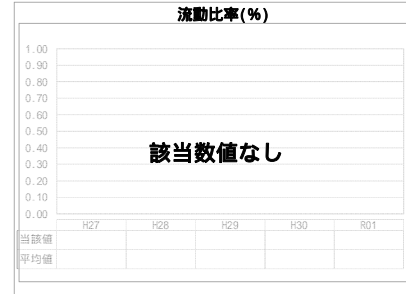
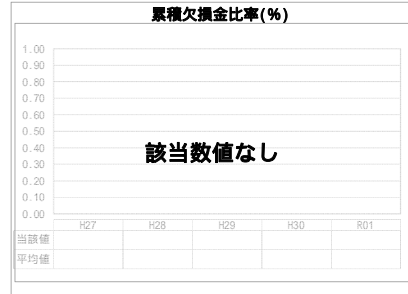
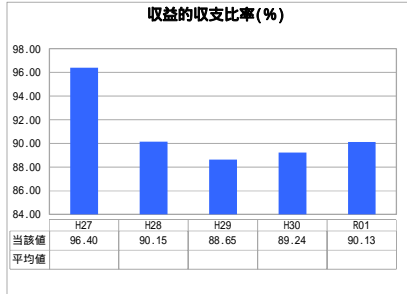
佐賀県 小城市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.33	100.00	2,970

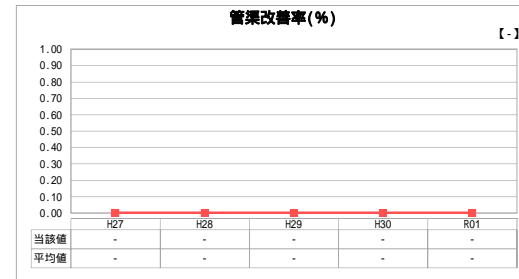
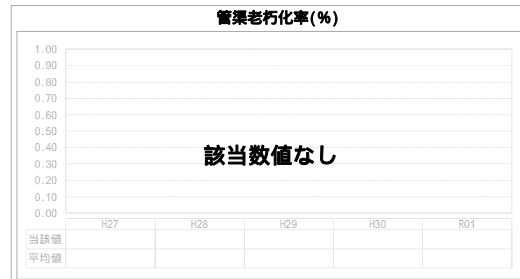
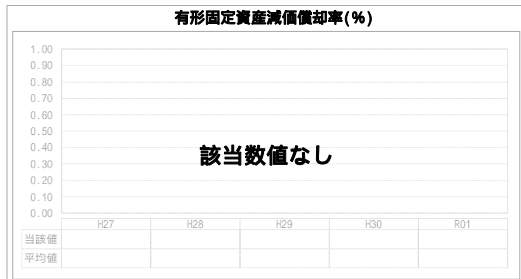
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,327	95.81	473.09
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
150	0.11	1,363.64

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当市の個別排水処理について、収益的収支比率は微増傾向にあるが、数値上90%付近となり、他会計繰入金に頼っているのが現状である。
 企業債残高対事業規模比率については事業が終了しているため減少していく。
 経費回収率、施設利用率は類似団体と比較して効率のな状況である。
 汚水処理原価が年々増加している要因は、修繕費の増加と有収水量の減によるものである。
 また、水洗化率は類似団体と比較して低い水準にある。その要因は死亡や転出による水洗化人口の減少によるものである。
 今後は特定地域生活排水処理と維持管理を合わせて行うなど連携を取りながら、費用を抑えて効率的な経営に取り組んでいきたい。

2. 老朽化の状況について

当市の個別排水処理の供用開始は平成13年5月1日となっており、法定耐用年数を超えるものはない状況であるが、今後は経年劣化による修繕費等の増加が見込まれる。

全体総括

個別排水処理については、事業が完了しているため、今後使用料の増加は見込めない。経営改善を図るために特定地域生活排水処理と連携し維持管理費の削減に努めていく必要がある。